

Campus Today



夢は大きく 目標に向かって邁進

松本歯科大学・衛生学院入学式を挙げる 近代歯科医学の担い手として研鑽を誓う

ソメイヨシノがほころび春の兆しを感じられる4月7日(木)、松本歯科大学歯学部および大学院歯学独立研究科、衛生学院歯科衛生士学科の入学式が本館7階講堂において挙行された。歯学部学生54人、大学院生16人、衛生学院生50人、総勢120人を迎え、法人役員、教員、御父母らが新入生の晴れの日を祝った。

一昨年は新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮して入学式は催されず、昨年も歯学部入学式は中止となったため、大学全体としての入学式典の開催は3年ぶり。事前に歯学部・大学院・衛生学院の新生にPCR検査を実施し、臨席される御父母にも検査を受けていただき、出席者全員の陰性を確認したうえで、マスクを外しての式が実現した。



新入生を代表して誓いの言葉を述べる歯学部の有賀さん

トを導入して感染拡大防止に努め、全国でもいち早く対面授業を開始しました。入学後も各人が感染対策を行い、健全な大学生活をおくれるよう努めてください。衛生学院は本年度から募集人員を拡大し、長野県歯科医師会の協力を得て50人の新入生を迎えることができました。知識と技術を身に付け、歯科衛生士として社会へ貢献していただくことを期待しています。大学院生は、いよいよドクターコースです。研究に打ち込み、後輩たちをリードしてあげてください」と激励した。



新入生歓迎会で第4学年・三野君が祝福の歌を独唱

さらに「今年が大学創立50周年を迎えました。この大学をさらに飛躍・発展させ、卒業後も皆さんをサポートできるように計画しています。皆さんは永遠の同志・兄弟姉妹です。夢を大きく持ち、目標に向かって、共に本学を盛り立てていきましょう」と激励した。

川原一祐学長は、「医療者を目指すからには、社会から信頼を得られる人格者であらねばなりません。そのためには、焦らず、心身ともに病むことなく、悪いことをしないこと。この3つの戒めを胸に刻み、勉学に励んでください」と告辞した。

宇田川歯学部部長は「世界に羽ばたくグローバルな歯科医師を目指してください。6年後、この会場で卒業式を迎えられるよう、皆さんの努力を期待します」と呼びかけ、列席した教職員を一人ずつ紹介した。

歯学部新入生を代表して有賀万佑子さんは、「私たち2022年度新入生は、松本歯科大学生としての誇りを持ち、本学の建学の理念をわきまえ、歯科医師の理想を目指し、初心を忘れることなく、さらなる向上心を持って勉学に励みます」と宣誓した。



長尾君指揮・合唱隊有志による校歌斉唱

本学病院が診療業務を受託 塩尻市榎川診療所 地域の要望に応え1年ぶりに再開

松本歯科大学病院は、塩尻市木曾平沢の塩尻市国民健康保険榎川診療所の診療業務を受託することに、3月30日(水)より診療を開始した。

同診療所は、1991年に旧榎川村が開設し、塩尻市に

合併後は同市が引き継いだ。2014年からは医療法人が指定管理者として運営していたが、昨年3月に撤退し、診療は1年間休止していた。存続を求める住民の請願を受け、市は条例を改正して診療所を市直営とした上で、委託先として本学に診療を要請した。本学病院からは内科医の柳沢康敏医師と看護師2人を派遣し、市が雇用する事務員1人を加えた体制で、毎週水曜日に診療を行う。



左から矢ヶ崎理事長、柳沢医師、小口市長

同日は、業務開始前にセレモニーが開かれ、設置者の塩尻市の関係者や地元区長、議員ら、本学からは矢ヶ崎理事長、矢島安朝病院院長ら約20人が出席した。

小口利幸市長は「塩尻市と松

本歯科大学は包括連携協定を結んでいて協力関係にあります。このたびは矢ヶ崎理事長の英断によって、地域の皆さまが念願していた診療所を再開することができました。診療所は過疎化に拍車をかけない大きな要

です」と挨拶。

矢ヶ崎理事長は「文科省の認可を得るのに時間がかかりましたが、お世話になって塩尻市に一つ恩返しできました。市や地域と協力し、状況を見ながら診療日数などは検討していきたい」と述べた。

土川修・奈良井区長は「住民一同、診療再開を待ちわびていました。松本歯科大学に敬意と感謝を申し上げます。高齢者が多い地域なので、地域に寄り添った医療をお願いします」と期待を寄せ、柳沢医師は「健康相談を含め、体の変調に対して何でも訪ねてもらえる雰囲気づくりをしたい」と抱負を語った。

診療時間は毎週水曜日上午9時～正午、午後2時～5時。

印モディ首相が岸田首相と密室会談

内閣官房参事 松本歯科大学常務理事 飯島勲 特命教授

今月号は「プレジデント」4月29日号「リーダーの掟 飯島勲」より、岸田首相がインド・カンボジアを訪問した際の両国のもてなしとその成果に関する記事を要約して紹介します。

岸田文雄首相のインド・カンボジア訪問に同行した。2泊3日で2カ国を回る強行軍だった。ロシアによるウクライナ侵襲以来、国際社会では第3次世界大戦を避けるため、外交活動が活発に展開されている。冷戦終結後最大の危機などともいわれるが、私が政治の世界に関わるようになって46年、初めて経験することは驚いている。

そして、今回の訪問国であるインドとカンボジアは、現在の国際情勢の中で、重要なポジションにある。

まず、インドは、日本が推進する「自由で開かれたインド太平洋」構想の重要なパートナーであり、日本、米国、オーストラリア、インドによる「Quad」ク

アッド」の一員でもある。その一方で、兵器調達などでロシアとの関係も深く、国連安全保障理事会と国連総会での対口非難決議案の採決で、いずれも棄権したという立ち位置にいるのだ。岸田首相は、この微妙な立場のインドに対して、国際社会の側に立ち、ロシアへの制裁に協力を求める立場でモディ首相との首脳会談に臨んだ。会談は当初予定より大幅に延長され、その大半がウクライナ問題にあられた。

岸田首相は、ロシアのウクライナ侵襲を明白な国際法違反であると厳しく非難したうえで核の威嚇使用は断じて受け入れられないと強く主張し、協力を要請した。モディ首相も、戦闘の

即時停止と対話による事態の打開に向けた働きかけの重要性で一致したという。

岸田首相は会談後のぶらさがり会見で「ウクライナ情勢で一歩踏み込んだ連携を確認できた」と話していたから、手応えを感じたのだろうと思う。

岸田首相がインドに入る前日の3月18日は、ヒンドゥー教の春の到来を祝う「ホーリー祭」の開催日だった。カラフルな色の粉を掛け合う華やかなお祭りである。インド中が大騒ぎになるらしい。しかし、街はずっかり落ちていて、空港から会談会場まで、沿道には岸田首

相の顔写真入りの看板がずらりと並んでいた。これは国賓並みの歓迎で、インド外務省の関係者がホーリー祭を返上して、準備してくれたのだという。

モディ首相の意向で、夕食会は通訳だけを交えた一対一の形になったが、これは極めて珍しいことだ。岸田首相との信頼関係を構築するため、モディ首相が自ら指示したメニューはダルカレーと呼ばれる豆のカレーで、おかわりするほどお気に入りらしい。

次の訪問国カンボジアは、今年のASEAN議長国であり、ウクライナ情勢については、国連総会の対口非難決議案の共同提案国である。さらに、日本が初めて国連平和維持活動（PKO）に参加して、自衛隊を派遣してから30年の節目にあたる。東南アジアにおける日本の重要なパートナーである。会談では「史上最良レベルの二国間関係のさらなる促進」として、安全保障分野の協力強化や、経済支援、文化交流などで意見交換が行われた。国際情勢についても

ウクライナ問題のほか、ミャンマー、北朝鮮への対応における連携を確認した。

首脳会談の相手であるフン・セン首相は、過去に23回も来日している知日派であり、こちらの歓迎ぶりもインドに負けず熱烈だった。まず、プノンペンの空港に到着すると、待っていたのはフン・セン首相の専用車であるメルセデス・マイバッハだった。自分が使っているクルマを岸田首相に使ってもらいたいと自ら手配したという。さらに、岸田首相歓迎のための歌も発表されたが、この歌詞がすごい。

「月」地域に広がる友好、日本とカンボジア 苦しいときに真心でカンボジアを支援してくれた友人を温かく歓迎します 無償の支援、もはや兄弟 橋、道路、学校、すべての分野 今、カンボジアは皆で友人を歓迎します 日本よ、ありがとう 新しい日本の首相は素晴らしい方 日本との友好は長年のもの 日本とカンボジアは兄弟 歓迎の夕食会では、カンボジア語でカバーされている「涙そうそう」「恋の季節」が演奏されたほか、フン・セン首相が作詞した歌も披露されて、和やかな雰囲気だった。



インドのモディ首相と会談する岸田首相（左）

今回の訪問国カンボジアは、今年度の「教育部門」に本学病院長・口腔インプラントセンター長の矢島安朝特任教授が受賞された。

この「教育部門」は、日本歯科医学学会会長賞受賞基準第3条第2号により、歯科医学教育に30年以上従事しその向上に特に著しい功績があったと認められる者に贈られる、大変栄誉ある賞である。

矢島先生は、1980（昭和55）年に東京歯科大学を卒業後、同校にて一貫してインプラント学一筋で、教育、研究に励んでこられた。インプラント学は多領域連携型の包括的学問であるという視点から、2005年東京歯科大学千葉病院に口腔インプラント科が開設され、矢島先生が初代教授となられ、その後

2007年に口腔インプラント学研究室、2009年には口腔インプラント学講座に昇格となった。

この時代の口腔インプラント学の教育は、インプラントが歯科医師国家試験に出題されないことを理由に、ほとんどの大学では数時間の講義のみであった。

しかし、矢島先生は、他大学と比べはるかに多い年間48時間の講義+基礎実習を行い、マスメディアに取り上げ

られるような特徴的な実習を作り上げたことも含め、口腔インプラント学の学習方略の基本を構築された。日本で最初の口腔インプラント学講座を立ち上げた創成者であるといっても過言でない。

さらに、矢島先生はインプラント治療の事故防止に向けた教育活動として、歯科医師に対する教育としては、数多くのインプラント・トラブルに関する論文や書籍を発刊し、また多くの歯学系学会においてインプラント事故関連の教育講演の演者を務め、各学会会員への知識向上に寄与された。都道府県歯科医師会等でも計100回以上のインプラント関連の講演を行い、一般歯科医師の生涯教育に多大なる貢献をされた。

日本歯科医学学会においても、評議員、評議員議長、各種委員会委員等を歴任され、会務の健全な運営に尽力された。

2013年には東京歯科大学水道橋病院院長、2019年には東京歯科大学大学院歯学研究科長、2021年には同大学

名譽教授を歴任されている。これらが受賞に至られた概要である。さる2月18日（金）に日本歯科医学学会第107回評議員会が開催され、功績発表ならびに顕彰状、勲章の贈呈が執り行われた。

矢島先生と同時に、研究部門で田上順次先生（東京医科歯科大学名誉教授）、米山武義先生（静岡歯科大学名誉教授）、教育部門で荒木孝二先生（東京医科歯科大学名誉教授）、地域歯科医療部門で中村譲治先生（福岡県歯科医師会会員）の5名が受賞された。

栄えある受賞に心から敬意を表すると同時に、今後も本学の発展のためにご指導・ご尽力を賜りたい。

（歯科保存学講座 教授 吉成伸志）



日本歯科医学学会会長賞を受賞した矢島病院長

近隣の果樹園はナシやモモの花で彩られ、間もなく可憐なりんごの花もほころぶだろう。

背後にそびえる北アルプスの連嶺はまだ残雪が豊かだ。はるか北方に目を向ければ、白馬岳の名の由来となった「代掻き馬」が姿を現している。鹿島槍ヶ岳の「鶴と獅子」、爺が岳の「種まき爺」などの有名な雪形も見分けることができるはずだ。

今から50数年前、本学の立地を求めて松本平をくまなく踏査された創立者・矢ヶ崎康先生が目を留められたのも、この桔梗ヶ原のすばらしい景観だったと伺ったことがある。

ここは里からは容易に仰ぎ見ることができない秘峯とされた奥穂高岳（3190メートル）や峻険な前穂高岳の東壁（井上靖の小説「氷壁」で有名な本邦3大岩壁のひとつ）を仰ぎ見ることができると言われるビューポイントで、聖地ともされている。キャンパスの花々に話を戻そう。花の季節はまだ続く。アメリカハナミズキ、たくさんアツツジやサツキ、西洋シヤクナゲ、係の人たちが丹精して育てている草花など。

珍しい花木もある。チュウリツツ型の花が咲くユリノキ。花

も美しいがおいしい果実を結んでくれるアンズやカリンなどもある。植物図鑑を片手に探してみるのが一興だろう。

年輪を感じさせるような大木も少なくはないが、いずれも本学のキャンパス作りの一環として造成されたものだ。大きく作りすぎたため、この春から高所作業車を入れて梢を切り落とす作業の対象となっている本館周囲の松の木も、筆者が着任した当時はまだヒヨロヒヨロの苗木同然だったのである。

本学が創立されて間もない時期に製作されたPR映画（まだCDは登場していない）でビデオテープに「緑のキャンパス」がある。当時に構想されたすばらしい学園環境は、まさしく現実のものとなった。本学関係者はかりでなく、一般住民にとってもすばらしい憩いの場となっている。

近くの保育園児が遊びに来たり、市民が散歩にきたりしている姿もしばしば見かける。学生諸君もきちんと挨拶を交わしてほしい。

筆者は全国28校の歯学部部全体を訪れたことがあるが、これほどすばらしい環境に恵まれた学校は他に

はなかった。

キャンパスの標高から言えば、わが松本歯科大学がこの国の「最高学府」であることに間違いはないが、そうした冗談ではなく、恵まれた環境を生かして精励するならば、本当の意味で「最高学府（誰もが憧れるすばらしい学校。入学者の偏差値の高さの意味ではない）」となることも決して夢ではないと筆者は考えている。

全国各地でのOB諸先生の活躍や、在校生諸君の活気に満ちた姿を見て、あらためて創立者の想いを感じる今日この頃である。



カンボジアでも熱烈歓迎を受けた

創立者の「視点」



大学誌編集主任 特任教授 笠原浩

も美しいがおいしい果実を結んでくれるアンズやカリンなどもある。植物図鑑を片手に探してみるのが一興だろう。

年輪を感じさせるような大木も少なくはないが、いずれも本学のキャンパス作りの一環として造成されたものだ。大きく作りすぎたため、この春から高所作業車を入れて梢を切り落とす作業の対象となっている本館周囲の松の木も、筆者が着任した当時はまだヒヨロヒヨロの苗木同然だったのである。

本学が創立されて間もない時期に製作されたPR映画（まだCDは登場していない）でビデオテープに「緑のキャンパス」がある。当時に構想されたすばらしい学園環境は、まさしく現実のものとなった。本学関係者はかりでなく、一般住民にとってもすばらしい憩いの場となっている。

近くの保育園児が遊びに来たり、市民が散歩にきたりしている姿もしばしば見かける。学生諸君もきちんと挨拶を交わしてほしい。

筆者は全国28校の歯学部部全体を訪れたことがあるが、これほどすばらしい環境に恵まれた学校は他に

はなかった。

キャンパスの標高から言えば、わが松本歯科大学がこの国の「最高学府」であることに間違いはないが、そうした冗談ではなく、恵まれた環境を生かして精励するならば、本当の意味で「最高学府（誰もが憧れるすばらしい学校。入学者の偏差値の高さの意味ではない）」となることも決して夢ではないと筆者は考えている。

全国各地でのOB諸先生の活躍や、在校生諸君の活気に満ちた姿を見て、あらためて創立者の想いを感じる今日この頃である。

花のキャンパス

も美しいがおいしい果実を結んでくれるアンズやカリンなどもある。植物図鑑を片手に探してみるのが一興だろう。

第2学年有志が新生サポート隊を結成 入寮時に引越し荷物の搬入等を手伝う



サポート隊のメンバーたち

第2学年の佐藤瑠海君を中心に有志17人は新生サポート隊を結成し、新生のキャンパスインへの入寮サポートを行った。引越し荷物の搬入の手伝いはじめ、寮の説明や学生生活のアドバイスなどを行い、先輩として新生を温かく迎えた。

4月2日(土)から3日(日)の2日間にかけて、新生のキャンパスインへの入寮に際し、新2年生の有志17人が集い、引越し荷物の搬入等のサポートをさせていただきました。

新型コロナウイルスの感染予防対策として新生や保護者の方々に検温と手指消毒をご協力いただき、荷物の搬入をお手伝いし、各部屋の設備説明、キャンパスイン内でのコンプライアンス、大学生活についての説明などを行いました。このようなサポートに対し、保護者の方々に差し入れをいただきました。このことをこの場をお借りして御礼申し上げます。

大学生活への期待を膨らませながらも若干緊張した面持ちの新生を迎えると、昨年同時期



新生の荷物の搬入を手伝う

の自分を投影しているような気持ちになると共に、サポートしてくれた先輩方が頼もしく、安心感を与えてくれたことを思い出しました。私たちも大学生活において後輩を持つことになり、昨年の先輩方のような存在になろうと改めて決意した次第です。また、学業のみならず、松本歯科大学の学生としての誇りを持ち続けるモチベーションを再確認する良い機会となりました。

印象的だったのは、保護者の方々を見送る新生の表情が、新生活への希望に満ち、輝いて

いたことでした。その表情を見た時には、このボランティアに参加させていただいて本当に良かったと感じました。後輩の皆さんが学業や大学生活に悩みがある時には、その問

地域連携歯科学講座・配島弘之教授が 介護用歯ぐきマッサージブラシを開発

全身の衰えより早く出現し、「フレイル」の前段階の一つ「オーラルフレイル」と呼ばれています。われわれ歯科医師はこのオーラルフレイルにいち早く気づき適切な指導を行うことが社会から求められています。口腔機能維持には筋力の維持、口腔清掃状態をよい状態に保つことによる感覚の維持、そして残存歯を可能な限り保存していくことが大切なのです。

これからの効果から口腔感覚の維持、残存歯の保存ができれば、要介護者のオーラルフレイルの進行を抑制することが可能とされています。訪問診療を実施されている先生方をはじめ、臨床現場で活用されると嬉しく思います。

これまで松本歯科大学では感覚機能をはじめとする口腔機能の発達に配慮した歯ブラシやマグカップ、おしゃぶりなどを株式会社リッチェル(富山市)と共同で開発・販売をしてきました。ライフステージを考えると、口腔機能の健やかな発達はその後の機能の維持・増進に極めて重要であり、人生における楽しい食生活や会話の一助となりえると思っております。

しかし、残念ながら近年注目されているように、老化により全身のフレイルが個人差はあるとはいえ進行してきてしまっています。なかでも口腔機能は衰えが

一方で、残念ながら近年注目されているように、老化により全身のフレイルが個人差はあるとはいえ進行してきてしまっています。なかでも口腔機能は衰えが

でも、愛を持って本会を運営していただきますので、ご理解とご支援のほど、よろしくお願ひします」と抱負を語っている。なお、5月28日(土)、29日(日)には、本学学生ホールにおいて「日本顎口腔機能学会第67回学術大会」が開催される。増田学会長が大会長を務め、地域連携歯科学講座の富士岳志講師が準備委員長を担当する。



シリコンラバー製のヘッド

病院だより vol.39

シリーズ 期待のホープ⑥ 健診センター 臨床検査技師副主任

宍戸 淑子さん

す。検査をするのが大好きで、病気を引けるために日々奮闘しています。

2021年10月から開始した腫瘍検査に特化した超音波検査についてご紹介いたします。

内科の川 茂幸先生を中心に腫瘍疾患を診察する外来診療では、腫瘍がんの危険因子や良性疾患を持つ患者さんに対し定期的に血液検査(腫瘍マーカー)とMRI検査に加え腫瘍検査に特化した超音波検査を組み合わせて経過観察をしています。

腫瘍は、胃の背側に位置する臓器で、右側は十二指腸、左側は脾臓や小腸や大腸、頭側は肝臓、足側は小腸や大腸に囲まれています。胃や小腸をはじめとする消化管に囲まれているため、ガスの影響を受けやすいこと、体の前から遠いため超音波のビームが届きにくいことが原因で観察が難しい臓器です。

2021年9月から松本歯科大学病院臨床検査室・健診センターに入職いたしました。健診センターで主に超音波検査、心電図検査、採血などを担当しています。臨床検査技師になって以来超音波検査を主に担当してきました。超音波検査の専門資格である超音波検査士の3領域(消化器領域・泌尿器領域・体表領域)を取得しており、超音波検査を専門分野としていま

そのために、超音波検査では

件が悪いと腫瘍は観察不良となり、腫瘍がんは発見が難しいといわれています。しかし一方で超音波検査は被曝がなく、非侵襲的で繰り返し検査を行うことができるため、患者さんに負担が少なく、超音波検査で経過を観察できれば利点ばかりです。そこで、腫瘍超音波検査の精度を高くするために、従来の検査に加え、体位変換と飲水法を全員に追加しました。

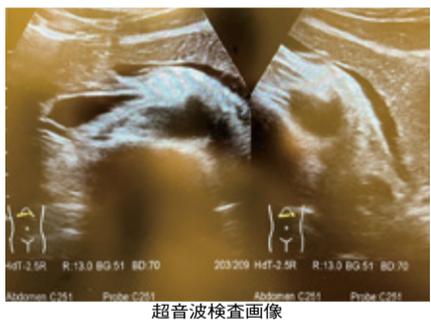
体位変換は、右側臥位・左側臥位・坐位・半坐位を組み合わせて観察しやすくなります。このように腫瘍を良好に観察して、早期腫瘍や腫瘍増大などをいち早く発見します。また、健診で重要ながん検診として、超音波検査が携わる領域には、腹部領域と乳腺領域があります。今後超音波検査による乳がん検診の体制を整えて実施できれば、周辺住民や職員関係者の方々のお役に立てると考

えています。超音波検査は、検査を行いなからリアルタイムに直接がんを発見することができる数少ない検査法です。しかし、客観性に乏しいといわれ、検査を担当する検査者の力量に左右される検査です。誰が検査してもがんを早期発見できるレベルの高い超音波検査を目指して、スタッフ一丸となって精度向上に努めていきたいと思っております。

総合歯科医学研究所・増田裕次教授は本年度より日本顎口腔機能学会の会長に就任した。同学会の目的は「顎口腔系の諸機能に関する基礎ならびに臨床の真理を探究し、その進歩発展を図ること」である。年2回開催する学術大会は、発表15分、質疑応答15分と国内異例の長い時間をとり、各分野の研究者たちが真摯な態度でディスカッションを進めており、発足当初から綿々と引き継がれている伝統と言える。さらに、若手研究者の育成のため、計画立案から実際の測定手技の習得、結果の分析と発表までを行う研究ワークショップ(「顎口腔機能セミナー」)を2年に1回開催。大学院生からベテラン研究者に至る

まで多様な参加者で切磋琢磨しながら3日間を過ごし、大学や専門分野を超えての仲間づくりにも役立っている。増田学会長は「臨床で口腔の健康維持向上の意識が高まり、科学的根拠をもった口腔機能検査の重要性が高まっています。確固たる機能検査を開発していくためには、解明しなければならぬことが数多くあり、本会の活動は重要です。顎口腔機能の研究に対しても、研究者に対

しても、愛を持って本会を運営していただきますので、ご理解とご支援のほど、よろしくお願ひします」と抱負を語っている。なお、5月28日(土)、29日(日)には、本学学生ホールにおいて「日本顎口腔機能学会第67回学術大会」が開催される。増田学会長が大会長を務め、地域連携歯科学講座の富士岳志講師が準備委員長を担当する。特別講演は筑波大学システム情報系の鈴木健嗣教授が「口腔機能解析に用いる人工知能の基礎と実践」と題して、学術大会優秀賞受賞者学術企画は明治大学理工学部の小野弓絵教授が「顎口腔機能と脳計測」と題して講演する。また、東京医科歯科大学大学院の松尾浩一郎教授によるカムカム弁当を食べながらのランチオンセミナーも企画している。問い合わせはE-mail: jsst67th@yahoo.co.jp (担当・富士)まで。



超音波検査画像



増田学会長



臨床検査技師副主任の宍戸淑子さん

